

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立岩槻商業高等学校)

目指す学校像	確かな専門性と良識を持った職業人を地域とともに育む
--------	---------------------------

重点目標	1 確かな学力を定着させ、専門性を高め、将来のスペシャリストを育成する。 2 規範意識の醸成を図り、豊かな心を育む教育を推進する。 3 保護者・地域と連携、協力し、地域の学校として信頼される教育活動を推進する。 4 生徒の多様な進路希望を実現し、望ましい勤労観・職業観を育む進路指導を推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	学習指導要領の改訂に伴う教育課程の見直し等、教育環境の変化への準備・対応を進める必要がある。また、引き続き「基礎学力の定着に関するワーキンググループにおける審議のまとめ」を活用した基礎学力の定着と、奨励級資格取得率と高度資格取得率の向上に組織的に取り組む。	基礎学力の定着・伸長に向けた授業の充実と教育環境の変化への準備 資格取得に向けた積極的な取組	①「学び直し教材(マナトレ)」を活用する。 ②授業公開週中の「教科の日」等を活用し、授業の工夫改善に取り組む。また未来を拓く「学びプロジェクト」の研究開発推進に取り組む。 ③次期学習指導要領の実施に向けた新教育課程編成への研究協議を進める。 ④各科目ごとにそれぞれの目標を設定し、生徒への意識づけを行う。 ⑤検定試験前補習を実施し、指導方法の改善や教材工夫等を行う。高度な資格取得に向け、スキルアップ講座を実施する。	①成績優良者が増加し、成績不振者が減少したか。 ②学校生活アンケートによる「授業の理解度」が良好か。 ③新教育課程の編成に向けた取組が進められたか。 ④効果的な意識づけが行われたか。 ⑤奨励級資格取得率と高度資格取得率が向上したか。		
2	社会的モラルの希薄による案件が増加傾向であるため、基本的な生活習慣の定着と、時と場所と場合に応じた対応ができる生徒の育成が必要である。教員の共通理解のもと、「時を守り、場を清め、礼をただす」指導を継続し、規範意識の醸成を図る。 また交通事故防止、いじめ防止、保健衛生と校内美化、施設設備管理の徹底により、学習環境を整備し、安心安全な学校づくりと豊かな心を育む教育を推進する。 さらに、今年度より導入が予定されているアプリ「スマート連絡帳」を使った配信システムの活用方法、効果的な運用方法を検討する。	規律ある生活態度や人間力の育成に向けた組織的な取組 安全・安心な学校生活の実現に向けた取組のさらなる充実	①TPOに応じた対応ができる生徒を育成するため、約束事(時間、規則、提出物等)を守り、時と場所と場合に応じた身嗜みや立ち居振る舞いができるよう指導する。 ②「時を守る」指導を、今後も組織的・継続的にを行い、始業前の校歌の放送、「遅刻防止週間」等を実施する。また、チャイム着席や事前準備の徹底、授業開始・終了時挨拶を励行する。 ③部活動の活性化のため、活動実績を校内外に発信する。 ④交通事故防止のため、交通マナー向上の取組や登下校時に校外巡回指導を実施するとともに年3回PTAによる登校時の巡回指導を実施する。 ⑤AEDを操作できるようにするため、時宜を捉え講習会を実施する。 ⑥いじめ防止のため、「基本方針」に則った取組を推進する。 ⑦クリーンキャンペーン等を活用して、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を励行する。 ⑧「スマート連絡帳」を使った配信システムの活用方法、効果的な運用方法を検討する。	①約束事を守り、TPOに応じた対応ができたか。 ②遅刻者数が減少し、遅刻ゼロの日や年間皆勤賞が増えたか。学校生活アンケートによる「チャイム着席状況」が良好か。 ③部活動加入率と活動実績が向上したか。 ④交通事故(被害・加害)がゼロか。 ⑤全教職員がAEDを操作できるか。 ⑥いじめの件数がゼロであったか。 ⑦クリーンキャンペーンを有効に活用できたか。 ⑧システムを有効に活用できたか。		
3	資質が高く、目的意識が強い生徒を確保するため、広報活動の一層の充実を目指し、体験入学等の実施時期、実施方法等を検討する。また、出前授業、進路説明会、上級学校訪問の機会を活用し、これまで以上に、本校の教育活動および商業教育の魅力を効果的に発信する。 岩商学校づくり協議会や地域との連携の機会を通じて、外部の教育力を活用し、伝統の継承と豊かな人間性を育む教育を実践する。	学校全体での広報活動の充実 地域や関係機関との協力による外部の教育力の活用	①学校説明会の実施回数を増やし、実施形態や実施内容をより充実させる。中学校訪問や進学フェア等への参加とアプローチの工夫を組織的に積極的に行う。 ②HPの細かな更新やわかりやすい学校案内の作成等により、本校の特長や教育活動について情報提供する。 ③出前授業を積極的にを行い、商業教育の良さを伝える。 ④次代を担う産業人材イノベーション事業、岩商学校づくり協議会等を円滑に実施し、外部講師や外部機関等、外部の教育力を活用する。 ⑤地元小学校との交流事業や県立学校等公開講座(夏季・冬季)を継続して実施し、岩槻まつり等の地域イベントに積極的に参加する。	①学校説明会等の参加者が増加したか。 ②志願者が増加し、定員が確保できたか。 ③出前授業の訪問中学校は増加したか。 ④地域との活発な連携や貢献が実施できたか。		
4	生徒の多様な進路希望の実現のため、各学年のキャリア段階に応じた、きめ細かい進路指導を行う。(大学・短大・就職・公務員等)インターンシップの充実により、社会的に自立する力を育成し、望ましい勤労観・職業観を育む進路指導を推進する。進路行事等の活用で、早期に進路意識を向上させるとともに多様な進路への対応を進める。	進路希望の実現と進路意識の向上	①多様な進路希望に対応するため、外部講師や就職支援アドバイザーの活用と一般常識問題やガイダンスの充実等、組織的な対応を推進する。 ②生徒や保護者への適切な進路情報の提供と、個に応じたきめ細かい進路指導を実施する。 ③インターンシップにおいて、事業所との連携強化や事前・事後指導の充実を図り、進路意識を向上させる。 ④生徒の進路実現に向け「表現力サポート」を導入し、将来の進路に対して、自ら考え、自ら選択できる生徒の育成を目指す。	①②進路未定者が減少したか。 ③進路アンケートによる「満足度」が良好か。 ④インターンシップの成果と生徒満足度が良好か ⑤「表現力サポート」を実施できたか。		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	平成	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		